

## テレビ連続小説

・ E C 4 U ・

### 第十三話「A I T I」

「今の気持ちを表すと、M S S って感じだね」

「え、どういう意味？」

「マジ寒すぎて意味なんだけど」

「まったく、この調子なんだから。私はため息をつく。彼ったら、テレビの影響なのか何なのか知らないけれど、最近いつもこんな口調だった。私たちの子供時代で言うところの『MK5』だとか『チョベリバ』みたいな、若い子の好むイマドキ言葉とでも言えばいいのだろうか、とにかくそんな感じのニュアンスで話したがる。」

「3月だっていうのに、北海道の春は冷え込むわよね。せめて心だけでも暖かく春を迎えたいものね」

「本当それ。A M N T」

「え？」

「あったかいもの飲みたいです」

「SNSサイトなどによると、最近の流行として『ローマ字表記の子音だけで名前など表す』なんていうのも流行しそうだな。たとえば、オサダさんなら『OSD』、イシザカさんなら『ISZK』というよう具合に。単語や文章なんかもそんな風に表現するのだろうか？ 大好きだった『DISK』、おしいは『OIS』……何だか頭が混乱してきた。流行に疎い私にはちょっと向いてないかも。」

「暖かいといえば」

「彼が私に差し出したのは、一通のダイレクトメールだった。そこには『どかん！と大決算セール』の文字があった。北海道三菱の決算セールのお知らせのようだ。なるほど、確かに人気のあるD5やアウトランダーPHEVを決算ならはの価格で購入できたり、来場スタラッチで札幌市内の人気洋菓子店の商品がもらえたり、このお得な喜びには心も暖まるかもしれない。」

「……実は、忘れてない？ 俺のこと」

「忘れてるって、何よ。どういう意味……、あー」

東京モーターショー、南店ショールーム、札幌モーターショー……彼は流浪の旅を続けてきた。そうだ。

私は大切なことを忘れていた。時は3月、私はあれ

ほど彼の出現を待っていたじゃない！

「やっと見つけたよ、俺の居場所」

「私、私……Z A T なんだから」

「え？」

「ずっと、会いたかった」

1月の初売りで予約してから、私は彼に会うことを

—— エクリブクロス の納車を楽しみに待っていた。3月、ついに彼はこの世界に誕生するのだ。

「もう少し待って。きっと会えるから」

「うん……。どかん！と大決算セール、略してD D S

もしっかり楽しむよ」

見えなかったシルエットが現実になり、手の届かない虚像が質量を得るその時は、もうすぐそこに来

ている。春が来るんだ、待ちわびた春が。私にも、

北海道三菱にも！ ほら、伸ばした手のすぐ先に

。

つづく



炸裂するお得の爆発・決算です。

北海道三菱の

どかん!と・大決算セール